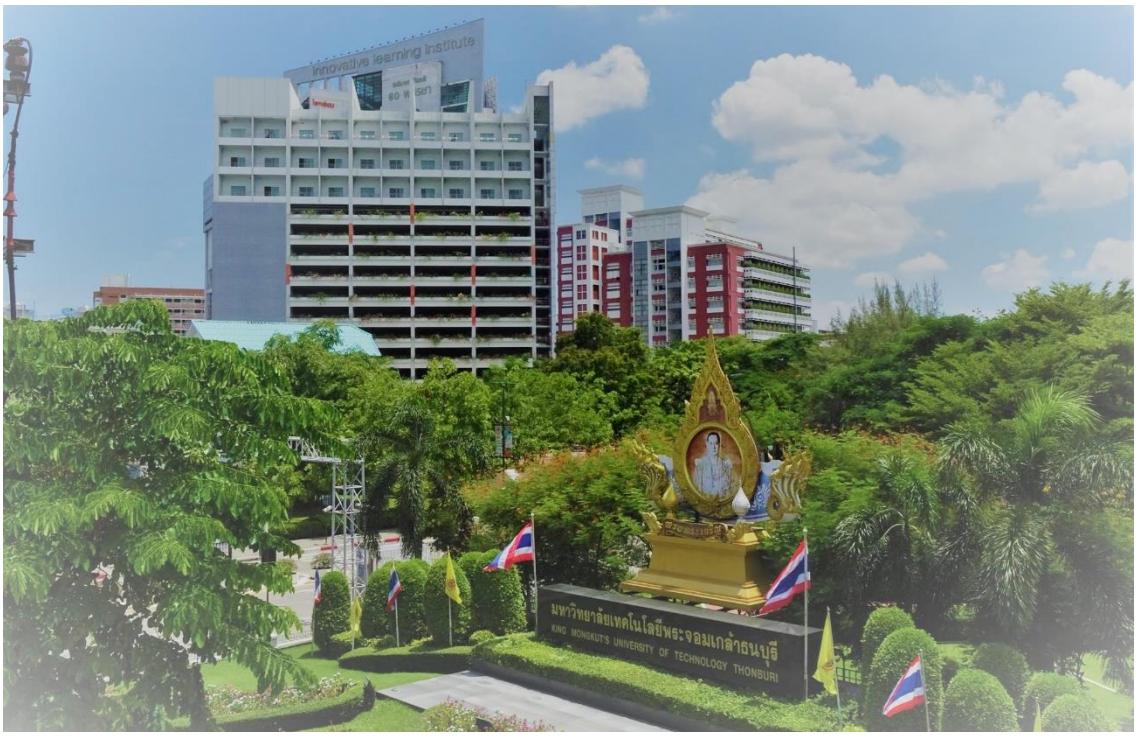
モンクット王工科大学トンブリ校
King Mongkut's University of Technology Thonburi（KMUTT）

高知工科大学　環境理工学群
大濱武研究室
金地哲史



モンクット王工科大学トンブリ校(King Mongkut's University of Technology Thonburi、以下KMUTT)はタイ王国の首都バンコクに位置する大学です。この大学は The Times Higher Education Asia University Rankings 2016 の 98 位にランクインする等、大変レベルの高い大学です。私は 2016 年 7 月から同年末まで本大学に科目履修留学をしました。そこで経験してきたことの一部をここに書き留めておきたいと思います。留学やタイという国について興味がある人の参考になればと思います。しかし、本報告は 2016 年度のものであり、次年度以降は異なることがあります。各自ご確認ください。

Kanachi Tetsushi
Kochi University of Technology
School of Environmental Engineering

留学決意前の話

友人と話しているとよく言われる「自分は英語が喋れないから留学には行けない」の一言。とても悲しい言葉である。大学入学までの私は英語が大嫌いで海外には決して行くものかと思っていた。高知工科大学に入学した年の春、高知観光したさに本学主催の'留学生と行く日本文化研修'に参加した。そこでインドネシアやタイ等からの留学生と知り合い、彼らから母国と日本の違い等を色々教えてもらった。それらはとても興味深いことで、日本の外は自分の知らない広大な世界が広がっているのではないかと思い始めた。もちろん、今の時代はスマートフォンで何回かクリックしていけば地球の裏側の小さな路地まで見に行くことは可能だ。しかし、留学生の彼らの話はそれにもましてフレッシュなものであった。そして、その自分が見たことのない世界を見てみたくなった。留学から帰ってきて感じたことを追記すると、タイに留学するという点では出国前までに最低でも TOEIC500 点程度あり、チャレンジするということへの一歩が踏み出すことができれば充分である。留学してから日用会話は英語が主になるため、否が応でもその能力は向上する。要はチャレンジしようと思うか思わないかだけである。

高知工科大学はたくさんの国際交流プログラムが設置されており、その中の目玉として海外研修が挙げられる。年度により行く国は異なるが、学生の負担金はごく僅かで、10 日間前後、訪問国で様々なプログラムに参加できる（https://www.kochi-tech.ac.jp/international/activity/as-detail/）。私はこれに参加し、タイ(含 KMUTT)とシンガポールに行ってきた。そこで見たもの・経験したことがとても刺激的で、タイの KMUTT でならば更に何か面白いことが経験できるのではないかと感じ、KMUTT への留学を決意した。また、タイの国柄はとても親日であることと「微笑みの国」と呼ばれるように活気がありつつ、穏やかな時間が流れていることも理由の一つである。

KMUTT という大学

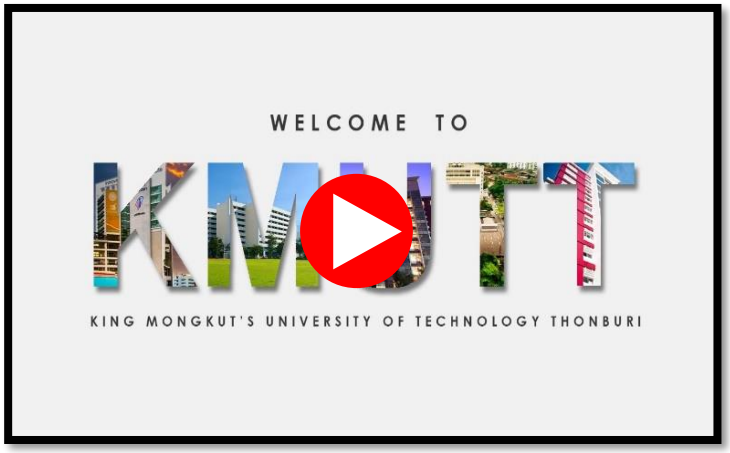
1960 年に the Thonburi Technology Institute (TTI)として設立され、何度かの学部増設などを経て今に至る。現在は 5 学部と 23 学科からなる理工系大学である。大学名にもある

グラウンド

図書館(6 階建て、2 階は王族についての博物館)

モンクット王とは、1851 年から 1868 年にタイの国王として在位していたラーマ 4 世の別称である。2018 年度公表の大学の詳細として、学生数：16413 人、留学生数(対学生数)：1%、1 教師当たりの生徒数：22 人となっている。学内は広大で、食堂をはじめ数件のカフェや日本食レストランなどいろいろな施設が存在する。また、KMUTT は催事がたくさんあり、例えば日本文化を紹介する“Japanese day”や有名歌手によるコンサート、ダンスパーティ、ムエタイの試合など様々なものがあり、大変充実している。

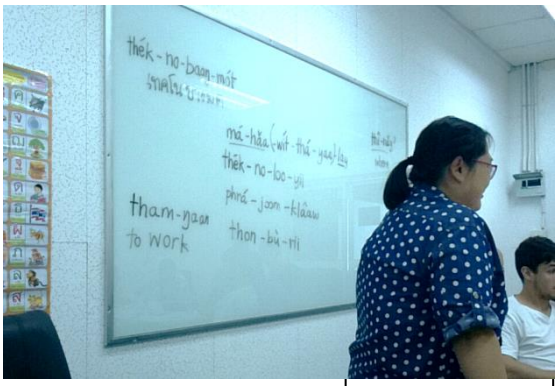
KMUTT の HP（http://global.kmutt.ac.th/）。



Japanese day での書道ブース

Teacher's day(先生たちへの尊敬の意を表す日)

KMUTT での留学



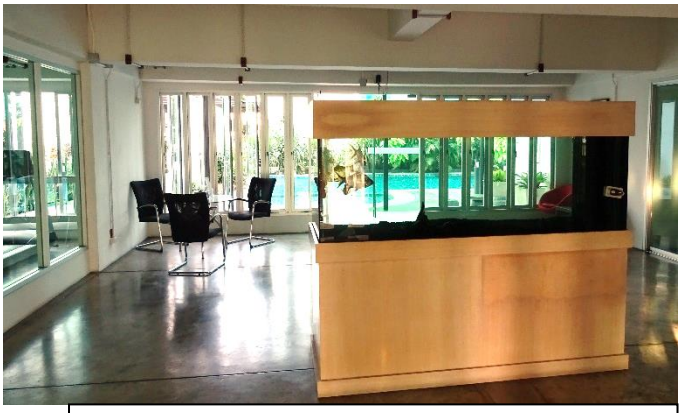
タイ語のクラス

バンコクに到着してから授業を受け始めるまでにはオリエンテーションをはじめとする様々な体験プログラムに参加できた。アユタヤへの文化研修や王宮へのワンデイトリップ、タイ料理調理実習などだ。授業は専門のものに加え、タイ語の授業『Survival Thai for Foreign Students』も受講していた。タイ語の授業は日常会話に重点を置いて開講してもらった。おかげで日常の基本会話はタイ語で行えるようになった。しかし、タイ語には声調が 5 つあるため、カタカナの字面上は同じでも音階によって意味が全く違うことが少なくない。日本人にはタイ語を理解するうえでこれが最も大きな障壁になるだろう。逆に、これが理解できれば、文法はほかの言語に比べて格段に少ないために容易に

理解できるようになる。写真にもあるように、授業はタイ文字ではなく日本語のローマ字に該当するものを用いて開講されるため、心配する必要はない。専門の授業は基本的にすべて英語で行われた。タイ人学生の質疑応答もすべて英語で行われ、中間・期末テストもすべて英語で行われた。どの先生も「24 時間いつでも質問してください」と連絡先を教えてくれ、とても親身になって教えてくださった。授業時間外では学生同士で集まって教え合ったり、同じ授業を受講している留学生同士で徹夜でテスト対策をしたりした。私が専門科目として履修したものは『Biological Unit Processes』と『Solid Waste Management』という授業である。『Biological Unit Processes』は微生物を用いた水の浄化に関する授業であった。本講義では、排水処理の基本的な仕組みを理解していることと大学初等程度の数学の知識が必要である。本講義受講予定ならば工科大環境理工学群の『生物環境工学』及び数学(特に微分積分分野)の受講を強くお勧めする。水の浄化を理解する過程で多くの計算が必要になるため、その数式の意味を理解することが大変だが、丁寧に式の意味を理解しようと心がければ大変興味深い内容になると思う。『Solid Waste Management』では世界各国のゴミのマネジメントについて検討し、発展途上国のそれと比較及び問題点の解決と考察を行う授業であった。本授業について、工科大に類する授業はない。しかし、日本のゴミ事情なども取り上げてもらえるため、授業の内容について理解ができないほど難解な部分は少ないと思う。補足として、受講した授業の単位はすべて取得できた。放課後は部活に参加したり、ジムで汗を流したりと各々の時間を過ごしていた。私は過去の経験からフェンシング部に所属し、現地学生と練習や模擬戦などで切磋琢磨した。帰国前には KMUTT 国際交流部に送別会を行ってもらったりし、どの留学生もタイを離れることを惜しんだ。

住むところについて

私は KMUTT からの下宿先リストとタイへの居住経験のある先輩のアドバイスから大学から２km ほどのところにある「Cosmo Resident」(https://www.facebook.com/cosmobangkok/)というコンドミニアムに住んでいた。家賃は 1 月 7000THB(21000 円程)であった。これに水道代と電気代がプラスされる。部屋の大きさは８～10 畳ほどはあったのではないかと思う(測ったわけではないので不確かである)。家財はタンス・テレビ・エアコン・ダブルベッド・冷蔵庫・机・ソファが常備されており、建物内には共有のコインランドリー・屋外プール・室内ジムがあった。また、一階には軽食のとれるカフェも併設していた。基本的に毎日建物内を清掃してくれる清掃員さんがおり、大変清潔感のある



Cosmo Resident のエントランス、奥にプールが見える

コンドミニアムであった。私以外の留学生も多くおり、プールサイドで会話したり時折パーティを開いたりしていた。セキュリティ面でもとても安心できる設備が整っていた。正面玄関はオートロックで、カードキーを用いて開錠できる。また、24 時間警備員が巡回警備をしてくれている。大通りまでは少し距離があるため、日中のみゴルフカートで大通りまでの送迎も無料で行ってくれた。大通りに出てから大学まではバスに乗って大学に通っており、片道 20 円～60 円程である。

食べ物について

最近タイ料理が日本でもブームになっており、カオマンガイやガパオライスなど知っている人もいるだろう。タイ料理は辛いものが多い。しかし、“マイシャイプリック(唐辛子抜き)”といえば大概辛くなくなる。よく友人からお腹を壊さなかったかと聞かれるが、同じ時期に行っていた日本人留学生の間では、基本食事は屋台で済ませていたにもかかわらず食あたりにかかったということは聞かなかった。強いて言えば暑い為にたくさん水を飲んでお腹が緩くなったという程度であろう。日本からの輸入品をスーパー（マックスバリュー等）でたくさん売っていたり、丸亀製麺やすき家などの日本料理レストランがあったり、タイ食が万が一体に合わなくてもあまり心配しなくても大丈夫であろう。水道の水も国際的な衛生基準をクリアしているとのことらしく、沸かして飲んでいる人もいた。気になる人は 1 THB(3 円)/ 1 L の濾過水を売っている浄水器が様々な場所に設置されているため、そこで購入していた。食に関しては安くておいしいものが多く、思っているより格段に安全である。その安さの例でよく言う言葉が「贅沢しなければ、1 食用に 300 円握って外に出ればお腹いっぱいになって帰ってこれる」ということだ。

帰国して思うこと

まず、再び留学生活に戻りたいと常々思えるほど刺激的で大変興味深い半年だった。まったく知らない土地での一人暮らし経験。まったく違う文化の中での生活。日本語をほとんど使わない生活。全てが初めて尽くしの生活は、私に世界は広いことを身をもって体験させてくれた。そして、自分の常識が常識でないことを強く実感した。これは日本国内でも時々感じることではあるが、留学生活の中ではこれを買い物から授業まで常に感じた。何より、かけがえのない友人を数多く作ることもできた。知らない土地で生活していく中で助け合った仲間との絆は今までにないほど強いものとなり、何かあるたびに連絡を取り

合っている。また、語学力もとても向上した。日常会話は基本的に英語かタイ語だったために“机上の語学”ではなく“実用的な語学”の力が格段に向上した。

現在はインターネットが普及し、何回かクリックするだけで世界各国の道の上に降り立つことができる。しかし現地に実際に降り立ち、見て・感じて・行動することでインターネットでは得ることのできないほど多くの経験と発見を得ることができる。そういった意味では旅行で行けばいいと考える人もいるかもしれない。しかし、旅行では表面的なところしか見ることができない一方、現地に少し長くとどまることで更にディープな部分まで感じることができる。旅行ではなく留学する意義はそこにあるのではないだろうか。そして、それは自分たちを大きく成長させてくれる大きな糧になるのではないか。

《Welcome　Party にて》

最後にこの場を借りて、今回の単位取得留学への支援をしてくださった先生方及び国際交流部の皆様に感謝申し上げます。

Kanachi Tetsushi
Kochi University of Technology
School of Environmental Engineering